

安全衛生だより第4号

1. 5月全国行事

- | | |
|-------------------|------------|
| 1) ごみゼロの日 | 5月30日 |
| 2) ごみ減量・リサイクル推進週間 | 5月30日～6月5日 |
| 3) 禁煙週間 | 5月31日～6月6日 |

2. 安全・衛生・防災の心得 : 「温故知新」で安全衛生管理・活動を

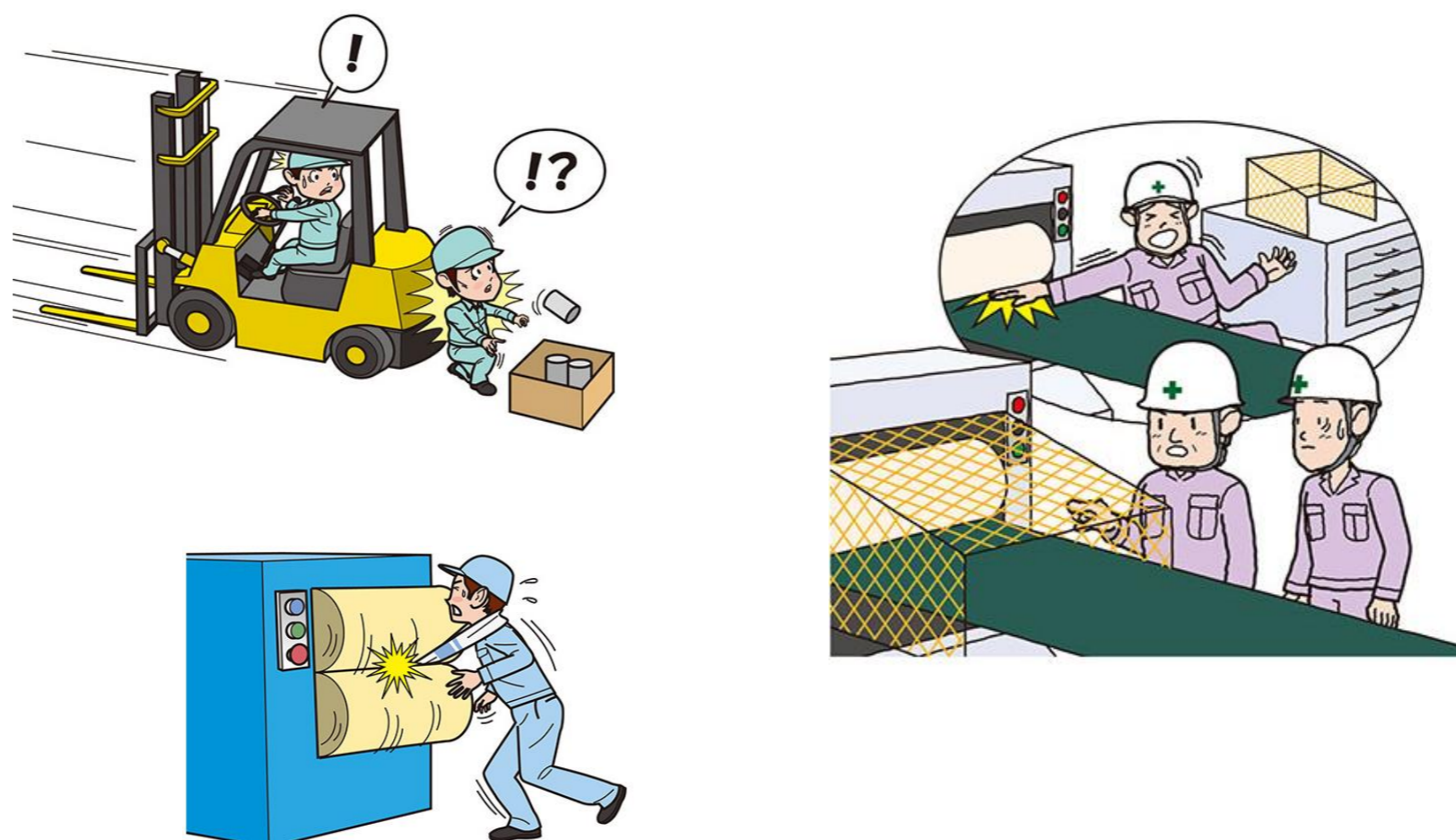
昨年（令和2年）の労働災害による死亡者は全国で718人、休業4日以上之死傷者は約11万5千人でした。（速報）最も労災事故が頻発していた昭和40年前後の死亡者は約6千人、休業4日以上之死傷者は約45万人で、不休災害を入れると多くの事業場では日常的に労災事故が発生していました。

現在、当時の経験者のほとんどが退職し、当時の苦い経験は多くの職場で忘れられています。私達は、自分の事業場や関連の事業場等で大きな事故や災害が発生すると、その当時は社会の注目もあって、経営陣や技術者をはじめ関係者の誰もが、安全管理・活動に高い関心を持ちすべてに注意を払いながら仕事をしますが、時間が経過するとともに徐々に注意深さが減衰し、無関心の層が増えてきます。

また、事故が長年発生していないという実績や自信が油断につながり、思わぬ事故や災害に見舞われるというパターンもこれまで繰り返されています。

もうひとつ、日本の企業体質として問題とされるのが、「誰がやった」「誰々の責任」と、モグラ叩きのように個人の責任のみを求めて一件落着となる風土です。これでは再発防止はできず、なぜ起きたのかという原因究明のスタンスを取ることを次世代にまでつなげていくことが必要です。若い世代が安全の伝承に関心を抱けるような仕組みを作るには、ノウハウを共有することが大切であり、管理者の世代交代に当たっては、積み上げてきた実績をうまくつないでいく事が大事です。

「温故知新」と言う格言がありますが、「過去の事故事例等を知ることで将来の事故等を予測し予防すること」と捉えることができます。これまで職場の内外で発生した事故や災害を忘却することのないよう、また、先輩たちの苦い経験を繰り返さないよう、マンネリ化や形骸化しているところはないかに注意を向けて、日々新たな気持ちで現場に即した安全管理・活動を展開していくことが必要です。



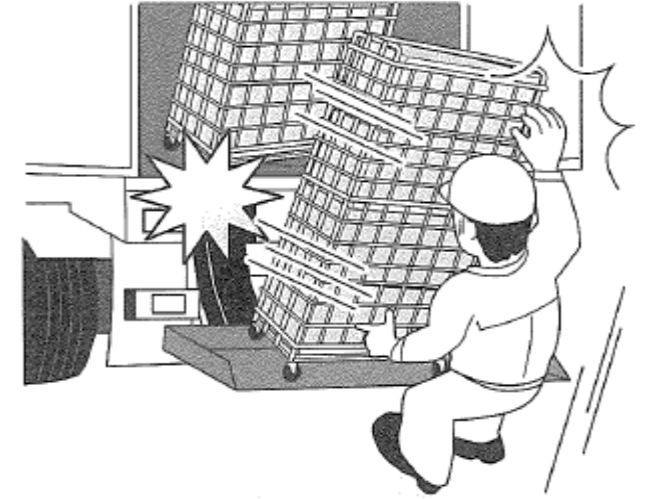
3. 他社 事故・災害事例から：カゴ台車が倒れてきて下敷き、死亡

(1) 災害発生状況

工場の駐車場において、商品を積載したカゴ台車（重量約200kg）をトラックに載せるため、トラックに取り付けられたテールゲート昇降装置を用いて台車を荷台に収納する作業をしていたところ、荷台に載せた台車が倒れ、昇降装置上の台車が作業員側に倒れ込んだため、作業員が仰向けに倒れて後頭部を地面に打ち、脳内出血で死亡しました。（当災害は単独作業で目撃者がいないため、詳細は不明）

(2) 災害発生原因

- ①積荷の扱いについては明確な作業手順書がなく、積載方法や作業方法、手順等は個々の作業員に任されていたこと。
- ②台車の積載方法が不適切で倒れやすかったり、荷が崩れやすかったことが推定されること。
- ③荷入りの台車の重量が200kgと重かったため、倒れてきた際に自力で支えることが困難であったこと、など。



(3) 再発防止対策

類似災害の防止のためには、次のような対策の徹底が必要です。

- ①トラックのテールゲートを用いてカゴ台車を取扱う際に作業手順書を作成し、実際の作業に即した教育・訓練を行う。
- ②重量物の運搬取扱いについて基準を定め、具体的な作業方法や手順を定める。
- ③管理・監督者等は、部下や関係者がどのような作業を行っているかを把握し、危険を伴う作業について指導や改善を行う、など。

- 環境安全部より：当社、構内作業安全基準書（改訂第2版）の中で、作業2-3・台車等による運搬作業、参考資料3-1・重量物の危険性（重大災害事例に学ぶ）を記載しておりますのでご参照下さい。

4. 当社 良い事例（抜粋）

●総合技術研究所

①重量物対策として階段運搬車を導入。



②感電防止対策としてセンサーを設置。



5. ヒヤリハット事例

- 事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	作業中
どこで	ダイス超音波洗浄装置の前
何をしている時に	ソルト洗浄中に他の人がダイス洗浄を行うため洗浄ノズルを持ち上げた時
どうなった	ノズル先がこちらを向いていたため水が掛かりそうになった

以上